

第68期 中間株主通信

2021年4月1日 ▶ 2021年9月30日

株主の皆様へ

平素は、格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
ここに、当社第68期中間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。

2021年12月

代表取締役社長 清水 邦雄

サトー 佐藤食品工業株式会社

証券コード：2814

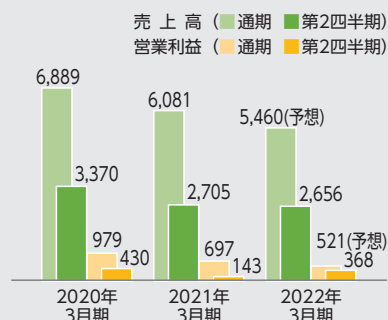
業績ハイライト

当社WEBサイトでは、決算短信や有価証券報告書など、詳細な財務情報を提供しております。

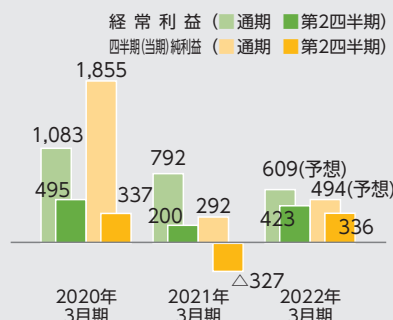
佐藤食品 IR

検索

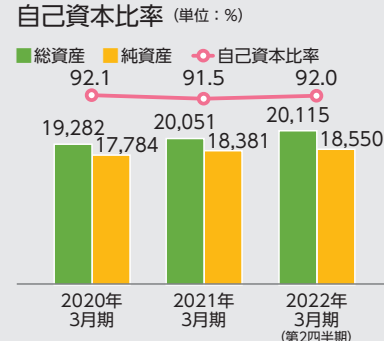
売上高／営業利益（単位：百万円）



経常利益／四半期(当期)純利益（単位：百万円）



総資産／純資産（単位：百万円）



役員一覧（2021年9月30日現在）

代表取締役社長	清水 邦雄
常務取締役	上田 正博
取締役	鈴木 宗行
取締役相談役	長谷川 憲治
取締役（社外）	秦 博文
取締役（社外）	光田 博充
監査役	垣見 泰年
監査役（社外）	串田 正克
監査役（社外）	稲石 純二

会社概要（2021年9月30日現在）

本社	愛知県小牧市堀の内四丁目154番地
設立	1954年10月
資本金	36億7,227万5千円
従業員	179名
工場	本社工場 愛知県小牧市 第二工場 愛知県小牧市 第三工場 愛知県春日井市

株式の状況（2021年9月30日現在）

発行可能株式の総数	27,000,000株
発行済株式の総数	6,266,838株 (自己株式3,059,622株を除く)
株主数	1,108名

株主優待制度のご案内

対象	毎年3月31日現在の株主名簿に記載された500株以上の株式を保有される株主様
優待内容	500株～999株 1,000円相当の当社製品（茶エキスパウダー） 1,000株以上 3,000円相当の当社製品（茶エキスパウダー）
発送時期	毎年6月を予定しております

佐藤食品の茶エキスパウダー

当社の茶エキスパウダーは、水に溶かすだけで、誰でも簡単に本格的なお茶をつくることができます。冷水にもお湯にもサッと溶けるので、大変便利です。おいしさはもちろん、持ち運びも簡単で茶殻が出ない等、様々な特徴を有しております。是非この機会にご賞味ください。

【写真は 3,000円相当の当社製品（茶エキスパウダー）】



単元未満株式の買増・買取制度について

口座のある証券会社へお申し出ください。特別口座を開設されている株主様は、口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社（TEL 0120-782-031）までお申し出ください。

2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用しております。（※2021年3月期以前の数値は適用していません。）



サトーは、独自の「粉末化」技術で 天然食品の可能性を追求し、グローバルワンを目指します

製品分野のご紹介



茶エキス ● 売上高: 1,036百万円

緑茶、ほうじ茶、紅茶、烏龍茶、麦茶、玄米茶、抹茶、ジャスミン茶、ルイボス茶等

お茶本来の風味を余す所なく粉末化

用途

インスタント茶、給茶機・カップ式自動販売機、製菓、健康食品 など



天然調味料 ● 売上高: 1,230百万円

鰹節エキス、昆布エキス、椎茸エキス、酢、魚介エキス(鮭、エビ、真鯛)等

※粉末調味料と液体調味料を合算して表示しております。

天然素材の豊かな味と香りを閉じ込めました

用途

つゆ、たれ、スープ、ドレッシング、製菓、プレミックス など



植物エキス ● 売上高: 335百万円

イチゴ、レモン、巨峰、りんご、バナナ、オレンジ、ブルーベリー、栗、ゆず、ネギ等

果実や野菜のフレッシュな風味をそのまま粉末化

用途

製菓、健康食品、粉末飲料 など



粉末酒 ● 売上高: 50百万円

赤ワイン、白ワイン、清酒、ブランデー、ラム、みりん等

世界主要17カ国で製法特許を取得! 当社の名を
世界に広めたオンリーワン技術です

用途

製菓、プレミックス、スープ など

当第2四半期の概況

当第2四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症(以下、「本感染症」といいます。)の変異株による感染が拡大し、断続的に全国各地で緊急事態宣言及び、まん延防止等重点措置が発出された結果、社会経済活動が長期的に制限されたことで個人消費が低迷し、厳しい状況となりました。国内では本感染症のワクチン接種が進展していることや、新規感染者数の減少に伴い、9月末で緊急事態宣言の期間が終了するなど、経済活動再開が期待されるものの、最終的な感染収束の見通しは立たず、依然として先行き不透明な状況が続くものと予想されます。海外経済につきましても、本感染症のワクチン接種が進み、経済活動再開の動きが見られますが、一部の国では感染が再拡大していることや、原油価格高騰に伴うコストの上昇、長期化する米中通商問題など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社といたしましては、顧客、取引先及び従業員の安全確保を最優先に、感染拡大に伴う一時的な操業停止のリスクを避けるため、マスク着用や手洗い消毒、食事場所や休憩室のエリア分けを行い、社内での感染拡大防止に努めるとともに、Web会議システムを活用したリモートによる展示会やセミナーへの参加など、国内の感染状況に応じた対策を講じることにより、事業活動を継続してまいりました。

このような状況のもと、当社の当第2四半期累計期間における売上実績は、前年同四半期累計期間から天然調味料を中心に緩やかな回復基調で推移いたしました。

茶エキスにつきましては、麦茶エキス等が増加したものの、紅茶エキス・ウーロン茶エキス等が減少したため、売上高は1,036百万円となりました。

粉末天然調味料につきましては、粉末ソースが減少したものの、粉末魚介・粉末鰹節等が増加したため、売上高は888百万円となりました。

植物エキスにつきましては、野菜エキスが減少したものの、果実エキス等が増加したため、売上高は335百万円となりました。

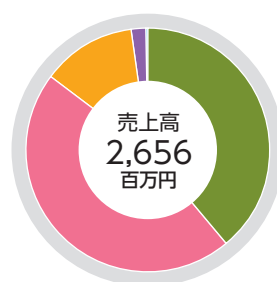
液体天然調味料につきましては、椎茸エキスが減少したものの、鰹節エキス・昆布エキス等が増加したため、売上高は342百万円となりました。

粉末酒につきましては、ラムタイプ等が増加したものの、ワインタイプ等が減少したため、売上高は50百万円となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,656百万円となりました。

利益面につきましては、売上原価の減少により営業利益は368百万円(対前年同四半期比157.0%増)、経常利益は423百万円(同111.2%増)となりました。また、法人税等88百万円(同83.0%減)を計上したため、四半期純利益は336百万円(前年同四半期は四半期純損失327百万円)となりました。

売上高構成比



■ 茶エキス	39.0%	1,036百万円
■ 天然調味料	46.3%	1,230百万円
■ 植物エキス	12.7%	335百万円
■ 粉末酒	1.9%	50百万円
■ その他	0.1%	2百万円

中長期の取り組み

特に下記の3点を重点課題として取り組んでおります。

① 安全・安心な製品の提供

品質保証プロセスにおけるITシステムを活用した業務改善。

② 生産性の向上及び合理化

原材料コスト変動リスク等に対処した、利益を生み出しやすい生産体制づくり。

③ 高付加価値製品の開発

製販一体となって、顧客ニーズの開拓、それにすばやく応えることができる体制づくり。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。